

ニュースレター 第17号

平成8年10月23日

日本精神保健看護学会

- The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing -

事務局：

〒150 渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学内

(理事長：稲岡文昭)

TEL：03-3409-0875

FAX：03-3409-0589

第6回 日本精神保健看護学会学術集会を振りかえって

岡谷 恵子

7月6日、7日の2日間にわたって、北里大学看護学部で6回目の学術集会が開かれた。今年はでき上ったばかりという真新しい校舎を借りての学術集会であった。2日間の学会参加者は会員が169名、非会員が89名で、合計258名であった。

今年の学術集会のテーマは昨年を引き続いて、「続・精神看護の専門性を問う」ということであった。第1日目の基調講演では、外口玉子先生が「ケアの時代に求められる看護婦の能力」という演題で熱弁を振るわれた。精神医療のみならず、ケアの提供の場が病院から地域や在宅へとシフトしつつある現在にあっては、場をどう動かすのか場のつながりをどう利用するのか、場をつなぐことの重要性を説かれた先生の講演は説得力のあるものであった。ケアの時代の到来に向けて、新しい看護サービス提供の仕組みを看護がどう構築できるかということは今後の非常に重要な課題であろう。基調講演の後、6つのテーマでワークショップが開かれた。これは例年行っている企画であるので、一つ一つのワークショップには一定の顧客がついている。毎年同じワークショップに参加する人を見ていて、ワークショップが研究活動グループに発展していくといいのになどと思ってしまった。今年は新しいテーマとして「精神科看護事例検討」が登場した。

2日目は25の演題が5つの会場に別れて発表された。研究のテーマは年々多様になってきて、精神看護領域の研究の発展を感じさせるものであった。最後はシンポジウムで、生活の場での看護実践に焦点を当てたシンポジストの方々の発言を基に、精神看護の専門性は一体何かというテーマについて昨年を引き続いて討議が行われた。我々は果たして生活を支える援助技術を明確にしてきたであろうか。我々は一体どのような生活援助技術論をもっているであろうか。今回のシンポジウムで今後の重要な課題が多く示唆されたと感じたのは、私一人ではなかったと確信している。学術集会も6回を数え、今後は21世紀の精神看護を見据えて、会員一人一人がさらにアクティブに発展させていかなければならぬだろう。

精神看護学が看護基礎教育のカリキュラムに！

本年8月に保健婦助産婦看護婦養成所指定規則の改正が行われ、来年4月から専門科目に新たに従来の「精神保健」を包括した「精神看護学」が設けられることになった。また、専門領域ごとに専任教員が配置されることになった。

わが国の看護基礎教育において、特に看護専門学校においては、それまで特別な疾患に限った患者への特殊な看護としてしか捉られていなかった精神看護が、今回のカリキュラム改正によって、「精神看護学」として、基礎看護学、在宅看護論、成人看護学、小児看護学、母性看護学と同等に専門科目のなかに位置づけられることになったのである。また、外来講師によって講義されていた精神科看護も精神科医や臨床心理士によって教えられていた「精神保健」も、専任の看護教員によって両者を統合した科目として教授されることになったのである。

このように学問として認められたのであるが、手放しでは喜んではいられない。「精神看護学」にかかわる教育者、実践者、研究者は次のような重大な責務が課せられていることを忘れてはならない。先ず、「精神看護学」の専門性を明確にするという作業である。どのような専門的な知識や技術・技法が必要とされるのか、そしてどのような理論や概念を基盤にするのかなどである。第2には、明らかにされた専門的な知識や技術・技法をもってケアしたとしたら、対象者はどのような変化をきたしたのか実証していくという作業である。また、無数に存在する未知な精神看護現象について解明していくことも重要な課題である。最終的には、「精神看護学」を学問として世間の人々に認められるように確立していく作業である。

以上のように考えてくると、日本精神保健看護学会のとする役割も一層重要になってくる。会員皆様のご協力をお願いする次第である。

(稲岡文昭、理事長)

精神保健活動のご紹介 —第6回—

機関紙を通じて『べてるの家』から学ぶこと

浦河赤十字病院 看護婦

私は、看護婦をする傍ら『浦河べてるの家』の機関紙の発行に携わっています。『浦河べてるの家』とは、精神障害回復者の活動の拠点であり、町内に4ヶ所の共同住居を持つほか、日高昆布などの海産物の製造販売を行い、また、回復者メンバーの佐々木実氏が福祉用具・介護用品の専門店、浦河日赤の建物・敷地管理等をする有限会社を設立し、回復者メンバーが中心となって地域の発展に貢献しています。

浦河べてるの家のモットーは、地域の人達や「医師、看護婦、ワーカーでも社会復帰できる作業所づくり」です。機関紙を始めた頃の私は、「役に立ちたい」という気持ちはありましたが、私自身の社会復帰など考えてもいませんでした。丁度、精神科病棟に勤務しており、病棟内だけではどうしてもトラブルの多い患者を肯定的にみることなど出来ずに、病棟内ではまったく無力な自分自身に目をそむける為にも、機関紙は私にとっていい口実になっていました。しかし、機関紙を通してメンバーと共に話合っていく中で、私の中にも彼らとよく似た弱さを発見し、メンバーの人生経験の中に、私の対人問題に対してのヒントが隠されている事を教えられました。

現在、私は内科病棟で勤務する傍ら機関紙の活動を続けています。病棟が変わってますます力が入ってしまう私にとって、べてるは安らげる場所であり、気付かぬうちに社会復帰をさせて頂いています。

《第7回 日本精神保健看護学会学術集会・総会のお知らせ》

と き：平成9年7月5日(土)・6日(日)

ところ：聖路加看護大学(東京都中央区)

(予定)

《一般演題募集について》

当学会では、第7回学術集会の一般口演演題を募集しております。会員の皆様の日ごろの研究や実践の成果を発表する場として、ふるってお申し込み下さい。

1. 発表をご希望の方は、次号(18号、平成9年1月発行予定)のニューズレターに同封のハガキにて、演題名をお申し込み下さい。

登録期限は平成9年2月末日の予定です。

2. 演題を登録された方には、学術集会事務局より抄録用原稿用紙をお送り致します。抄録原稿のしめきりは平成9年3月末日の予定です。

事務局だより

1) 平成8年度年会費の納入をお願いします。

年会費の納入状況は宛名の下に記しておりますので、同封の振込書で至急お納めください。年会費は7,000円、平成6年度分から未納の方は21,000円、平成7年度分から未納の方は14,000円となります。なお、退会を希望される方は、お手数ですが事務局までご一報くださるようお願い申し上げます。

2) 学会誌および抄録集のバックナンバーを販売しております。

①送本先の住所、②氏名、③ご希望の巻数、④部数を明記して事務局宛にお申し込みください。代金は後から請求させていただきます。学会誌第1～3巻はセットで5,400円、第4～5巻が各1,800円、第2～6回学術集会抄録集が各600円（すべて郵送費込み）となっております。第1回学術集会抄録集は在庫がございませんので、ご了承ください。

3) 新入会者を推薦される会員の方へのお願い。

最近、入会を申し込まれる方の申込書の不備が目立っております。そこで、新入会者を推薦される方は、入会を希望される方が学会員資格の基準に見合っているかどうかご確認の上、推薦くださるようお願い申し上げます。学会員資格は日本精神看護学会規約の中に明記されております。なお、入会のしおりにも掲載しておりますので、ご確認ください。
